

# 裸の王様

ある国に、服の大好きなダウン症の王様がいました。

ある日、お城に二人の仕立て屋がやってきて言いました。

「私どもは、馬鹿の目には見えない不思議な服を作ることができます」

「ほう、それは興味深い。早速、作ってみてくれんか」

王様は、興味津々で、男たちに服を注文しました。

それから、役人が、仕立て中の服を見に、訪れました。しかし、服が見えないのです。困った役人は、馬鹿だと思われたくなく、立派な服だと王様に報告しました。

他の役人も、みんな立派な服だと言いました。

そして服が完成しました。

「さあ、王様、服が完成しました」

馬鹿には見えない服を前にして、王様は言い放ちました。

「見えない」

役人たちは、びっくり。もっとびっくりしたのは、仕立て屋たちです。

「王様、見えないということは…」

「馬鹿だと言いたいのかい？」

「いえ…」

「これからパレードだ。誰かこの馬鹿には見えない服を着て参加できるものは居るか？」

誰も、手を挙げません。

「じゃ、私が着よう」

「しかし、王様…」

諸君には見えるんだろう。

「はい、見えますが、パレードはちょっと…」

「さあ、パレードだ。出発！」

王様は、裸でパレードに臨みました。

市中にも馬鹿には見えない服の噂が広まっていたので、誰も裸とは言えませんでした。

そんな中、一人の子供が言いました。

「王様は裸だ！」

王様は、その子供に言いました。

「良い勇気だ。ワシには子供がいらない。大きくなったらこの国を任せたい。よろしいか？」

子供の母親は、びっくりして言いました。  
「申し訳ございません！馬鹿な子でして…」  
「いいや、見えないはずだ。それを言うのは勇気のいること。その勇気が国を正しい方向に進めるんだ」  
結局、王様は、パレードを続け、将来の王となる子供を探し出すことに成功した。  
「馬鹿とハサミは使いようだよ」

了

Copyright (C) 2016. Angel RISA. All Rights Reserved.